

## 練馬区の福祉のまちづくりに関する 現状と課題

### 1 現状と課題（現行計画の施策を基準にした整理）

（3）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める … P2

（4）多様な人の社会参加に対する理解を促進する … P6

# 1 現状と課題（3）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

## 【外出しやすい環境づくり】（1）安心快適に利用できるための設備や案内

歩道や出入口に、「段差」や「傾斜」が無いこと、バリアフリー設備がみつけやすいことなどが、公共施設の利用の際に、より安心・快適に利用できることに繋がるようです。また、施設内のトイレや授乳室の整備も求められています。一息つける公共スペースやベンチの設置も望まれています。

「公共施設を利用する際に、より安心・快適に利用できるようにするためにどのような設備や案内がある」という設問における結果（関係団体\_問 13・関係者\_問 15）

地域福祉活動を行う団体の代表者等	令和5年度		平成30年度	
歩道や施設の出入口に、段差や急な傾斜が無い	35.6%	1位	30.4%	2位
疲れたときに休憩できるベンチがある	27.8%	2位	22.8%	3位
エレベーターやスロープが見つけやすい	26.5%	3位	35.9%	1位
地域福祉活動を行う個人	令和5年度		平成30年度	
歩道や施設の出入口に、段差や急な傾斜が無い	43.7%	1位	33.1%	2位
エレベーターやスロープが見つけやすい	30.6%	2位	36.1%	1位
施設に車椅子利用者用トイレや授乳室などがある	26.8%	3位	25.1%	4位

参考：練馬区の地域福祉を推進するためのアンケート（平成31年2月）

地域福祉を推進するための地域福祉関係者団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

## 【外出しやすい環境づくり】（2）充実すべき取組

ユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組については、団体・個人ともに、約半数が優先的に進めていくべきと回答しています。

「今後、練馬区内でだれもが外出しやすい環境づくりを進めていくためには、今後どのような取組を充実すべきだと思いますか」という設問における結果（関係団体\_問 17・関係者\_問 19）

地域福祉活動を行う団体の代表者等	令和5年度		平成30年度	
高齢者や障害者、子育て層などのユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組	43.1%	1位	46.8%	1位
だれもが外出しやすい環境づくりに関する区の取組を、わかりやすくまとめて情報発信する取組	27.5%	2位	29.5%	2位
若者や子どもたちが、障害の有無にかかわらず、一緒にまちづくりについて考え、意見を発信する取組	25.8%	3位	27.9%	4位
地域福祉活動を行う個人	令和5年度		平成30年度	
高齢者や障害者、子育て層などのユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組	55.9%	1位	50.4%	1位
若者や子どもたちが、障害の有無にかかわらず、一緒にまちづくりについて考え、意見を発信する取組	32.1%	2位	34.6%	2位
駅から主要な公共施設までのアクセスルートを連続的に改善する取組	26.6%	3位	27.1%	4位

参考：練馬区の地域福祉を推進するためのアンケート（平成31年2月）

地域福祉を推進するための地域福祉関係者団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

# 1 現状と課題（3）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

## 【外出しやすい環境づくり】（3）充実していない区内のバリアフリーについて

充実が求められるものとして、団体・個人ともに、段差や凸凹がなく、十分に幅のある歩道や道路が充実していないと回答しています。

表 3 区内のバリアフリーについて、どのように感じていますか」という設問において、「あまり充実していない」・「充実していない」と回答した合計の結果（関係団体\_問 12・関係者\_問 14）

地域福祉活動を行う団体の代表者等		
第1位	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凸凹がなく、十分に幅のある歩道や道路	71.6%
第2位	車いすの人やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）	60.2%
第3位	車いすやベビーカーで乗降しやすいバスやタクシー乗り場	59.8%
地域福祉活動を行う個人		
第1位	歩きやすいように障害物が取り除かれ、段差や凸凹がなく、十分に幅のある歩道や道路	86.7%
第2位	公園、道路などを含む、まち全体のユニバーサルデザイン	68.3%
第3位	車いすの人やだれもが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げる）	65.4%

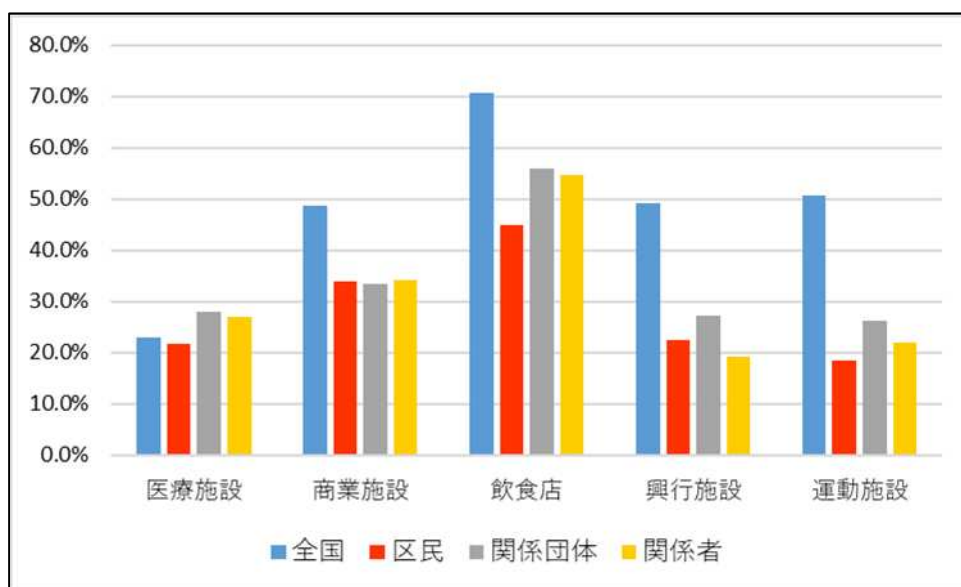
参考：地域福祉を推進するための地域福祉関係者団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

## 【建築物のバリアフリー】（1）バリアフリーが進んでいないと考える人の割合

商業施設や飲食店について進んでいないと考える人の割合が3割～半数近くとなっています。全国と比較すると、医療施設以外、区内でバリアフリーが進んでいないと考える人の割合は低い状況です。これらの状況は、5年前からあまり変わっていません。

また、飲食店については、関係団体・関係者の方がより進んでいないと考える割合が高くなっています。

図 16 区内中規模・小規模の建物について以前と比べて、高齢者や障害のある方、乳幼児を連れた方などが利用しやすいバリアフリー整備が進んだと思いますか」という設問において、「どちらか」と進んでいない」・「進んでいない」と回答した合計の結果（区民\_問 27・関係団体\_問 12・関係者\_問 14）



参考：内閣府意識調査（令和5年）

地域福祉を推進するための区民・地域福祉関係者団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

# 1 現状と課題（3）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

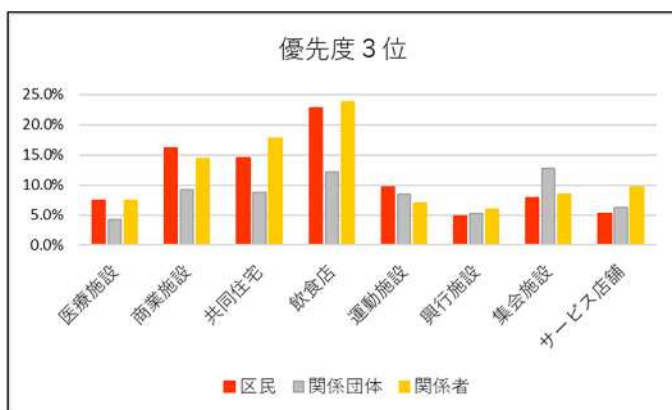
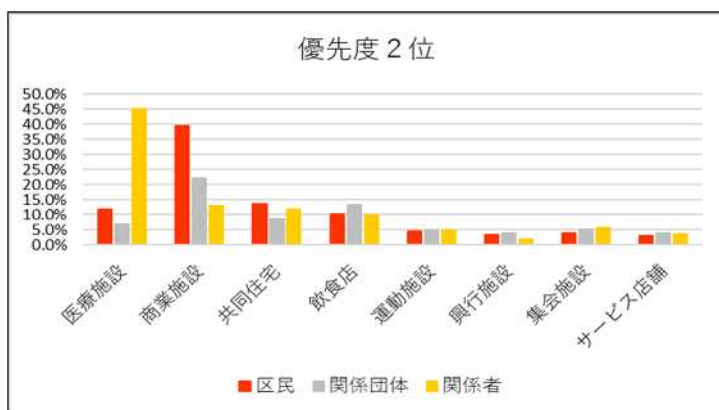
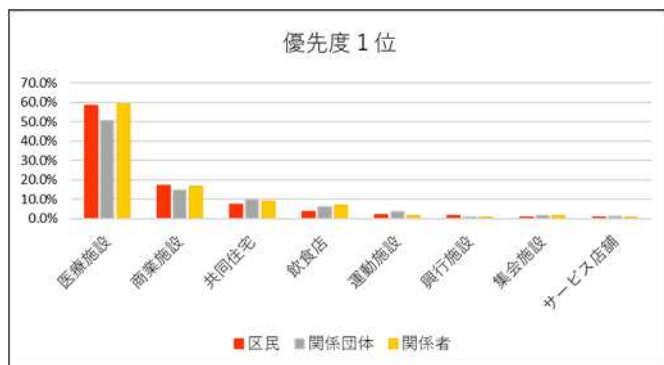
## 【建築物のバリアフリー】（2）重点的にバリアフリー化に取り組むべき建物

医療施設・商業施設・共同住宅・飲食店のバリアフリー化を望む声が多いです。

図 17 「今後、段差の解消や手すりの設置、車椅子やベビーカーで使いやすいトイレの設置などのバリアフリー化について、重点的に取り組むべきと思う区内の建物を前の質問の①～⑧の項目の中から、優先度の高いもの3位までの番号をお答えください」という設問の結果(区民\_27・関係団体\_問 14・関係者\_問 16)

※商業施設はコンビニやスーパーマーケットを例示

※サービス店舗は理髪店・旅行代理店を例示



参考：地域福祉を推進するための区民・地域福祉関係者団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

### 【練馬区の主な事業】

#### 1 鉄道駅のバリアフリー化

区内にある鉄道駅のうち、東京メトロおよび都営地下鉄の全ての駅と、西武有楽町線小竹向原駅と西武池袋線練馬駅にホームドアを設置済み。今後、西武有楽町線および西武池袋線内の5駅において、ホームドア設置が予定されている。区内では、平成23年度に全ての鉄道駅で、バリアフリー化された（駅出入口からホームまで段差なく移動ができる経路）1ルート確保されており、1ルートでは利便性を欠く都営地下鉄大江戸線光が丘駅で、区ではスロープ等の設置を行い、都が現在エレベーター工事に着手しており、2ルート目の整備も進んでいる。また、小竹向原駅についても2ルート目確保のための調整を行っている。

#### 2 駅と公共施設を結ぶ経路のバリアフリー化

主要公共施設と駅を結ぶ経路を、「アクセスルート」として定め、「みんなでつくる 公共施設へのアクセスルートユニバーサルデザインガイドライン」に基づき、6駅12施設、2医療機関の指定を行った。

アクセスルートの指定を行った経路については、視覚障害者誘導用ブロックや誘導サインなどの整備を進めている。

令和5年度は、2駅3施設についてアクセスルートの追加指定を行った。

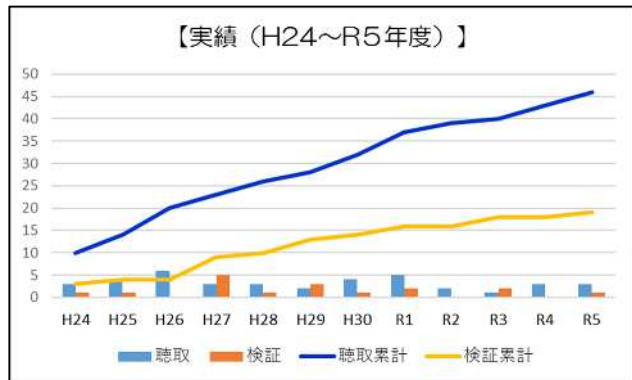


# 1 現状と課題（3）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

## 3 公共施設のバリアフリー化

練馬区福祉のまちづくり推進条例に基づく整備を行うとともに、一定規模以上の区立施設の建築および区立公園の新設等の際には、バリアフリーに関する区民意見を聴取し、設計に反映させることにより、だれもが使いやすい施設等の整備を目指している。

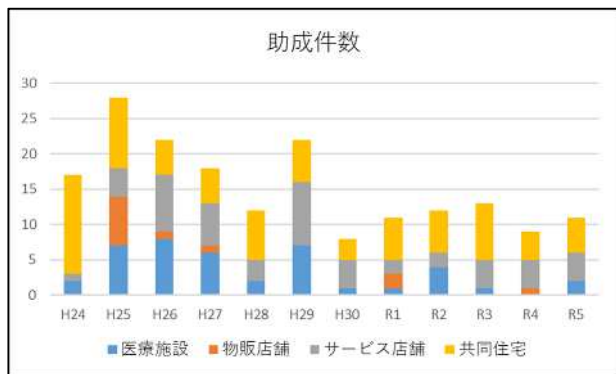
図 18



## 4 民間施設へのバリアフリー整備助成

店舗や診療所、共同住宅等のバリアフリー整備費用を一部を助成。

図 19



活用例

- ・スロープの設置
- ・手すりの設置
- ・トイレの洋式化
- ・自動扉への変更

など

### 【練馬区の主な課題】

#### 1 鉄道駅のバリアフリー化

区内鉄道駅のホームドアの整備や、車いすやベビーカーで乗降しやすいバスやタクシー乗り場の整備等、駅の安全性の向上や駅周辺のバリアフリー化が求められている。

⇒鉄道事業者との連携を図るとともに、駅周辺のバリアフリー整備の充実を目指す。

#### 2 駅と公共施設を結ぶ経路のバリアフリー化

公共施設までの歩道の段差解消や拡幅、経路の途中で休憩できる場所の設置等の要望が高く、歩行空間の安全性・快適性をどのように高めていくかが課題。

⇒歩道のない道路における新たな誘導方法を検討する等、経路のバリアフリー化の充実を目指す。

#### 3 公共施設のバリアフリー化

高齢者、障害者、乳幼児連れの視点を、バリアフリー整備に反映させる取組や一緒にまちづくりについて考え、意見を発信する取組み等、当事者参画がより求められている。

⇒利用者のニーズや配慮事項などを、公共施設の設計や整備、維持管理へ活かす仕組みの強化を図る。

#### 4 民間施設のバリアフリー化の推進

商業施設や飲食店のバリアフリー化について要望が高いが、既存の施設等では十分に進んでいない。生活に密接した中小規模のバリアフリー化の促進が課題。

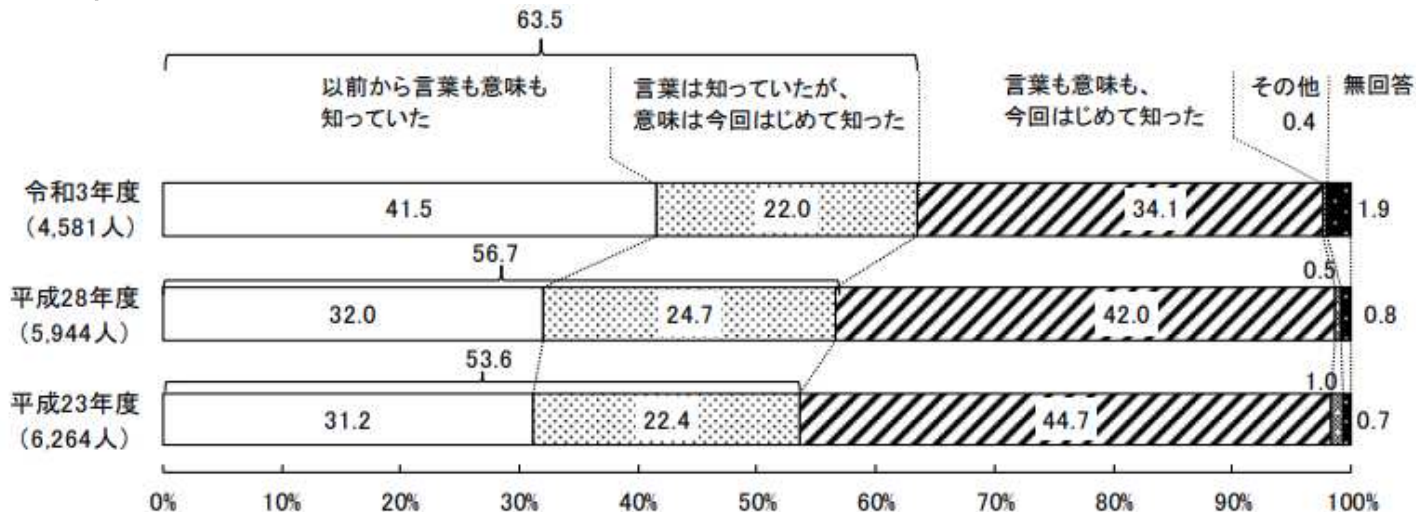
⇒事業者等がバリアフリーに主体的に取り組めるよう、福祉のまちづくり整備助成事業の普及啓発や、バリアフリー整備に関する情報提供等の充実を図る。

# 1 現状と課題（４）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

## ユニバーサルデザインの認知度

「ユニバーサルデザイン」という言葉や意味を知っているかどうか聞いたところ、「以前から言葉も意味も知っていた」と「言葉は知っていたが意味は今回初めて知った」を合わせた割合は63.5%で、28年度調査と比べて6.8ポイント増加している。

図 20



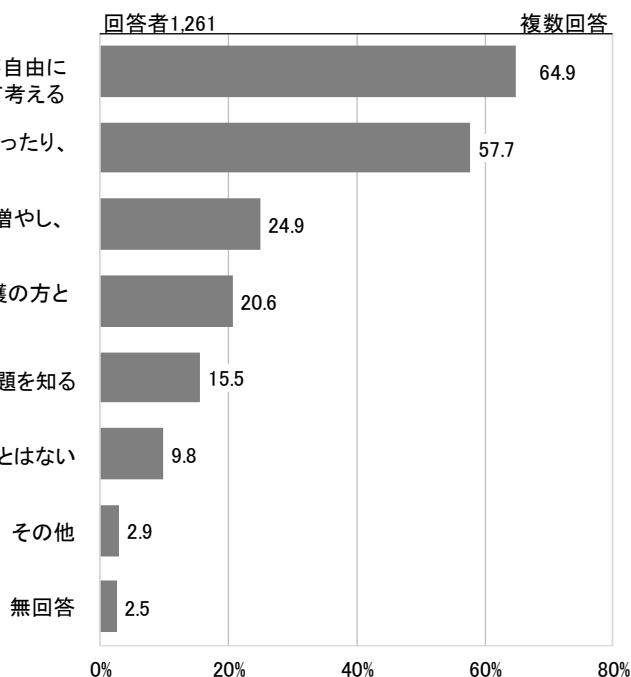
※出典 令和3年度東京都福祉保健基礎調査

## 福祉のまちづくりを進めるために取り組むこと

福祉のまちづくりを進めていくためには、「やさしいまちづくりを自分ごととして考える」(64.9%)や「思いやりの心を持ったり、手助けの方法を知る」(57.7%)が必要だと考える人が多く、子どもから大人まで誰もが、ユニバーサルデザインについて継続して学べる場をつくる等、ユニバーサルデザインに関する教育を充実していく必要があります。

図 21

- だれでもけがをしたり病気になったり、高齢になって体が不自由になる可能性があるので、やさしいまちづくりを自分ごととして考える
- 困っている人への手助けができるよう思いやりの心を持ったり、手助けの方法を知る
- それぞれ異なる特性を持つ多様な人々が交流する機会を増やし、お互いのことをよく知る
- 防災訓練など、地域の防災訓練に、障害のある方や要介護の方と一緒に参加する
- ボランティア体験を通じて、社会の課題を知る
- 特にできることはない



資料：地域福祉を推進するための区民・地域福祉関係者

団体調査・関係者調査（令和5年10月実施）

# 1 現状と課題（４）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

## 【練馬区の主な事業】

### 1 ユニバーサルデザイン地域講座の実施

ユニバーサルデザインの考え方を広げていくため、地域の子どもから大人まで、誰もがユニバーサルデザインに関する必要な知識や技術を学ぶことができる講座を令和4年度から開催。

**表 4**

	令和4年度	5年度
開催回数	2回	4回
参加人数	104名	82名

### 2 小中学生へのユニバーサルデザイン体験教室の実施

次世代を担う子ども達が、障害のある方などとの交流を通じ、それぞれの違いに気づき、考え、行動できる意識を学ぶための体験教室を開催。令和2年度からは実施校を中学校まで拡大。

**表 5**

実施数・受講者数	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
小学校	5校・348名	4校・296名	8校・642名	12校・1,435名	11校・1,047名
中学校	—	1校・415名	—	—	1校・180名
合計	5校・348名	5校・711名	8校・642名	12校・1,435名	12校・1,227名

### 3 ユニバーサルデザイン推進ひろばの充実

ユニバーサルデザインの考え方を広げていくため、ユニバーサルデザインの考え方や事例を学べるeラーニングを令和3年度に整備。

**表 6**

	令和3年度	4年度	5年度（※）
受講者数	2,313名	2,523名	2,923名

※5年度は令和6年2月までの受講者数。

### 4 障害のある方への情報保障の推進

令和4年4月から、視覚や識字に障害のある方が、区から届く書類を判別できるようにするため、区が送付する各種通知文書の封筒に音声コードを印字。また、希望者には、住民税や国民健康保険、予防接種の案内などの重要な文書の封筒に点字シールを添付するほか、文書発送時にメールでお知らせするサービスを開始し、視覚障害のある方に対する情報保障を推進。なお、点字対応を希望する届け出窓口を一本化し、点字対応希望者の情報を区内で共有を図り、当事者の負担軽減を行った。

## 【練馬区の主な課題】

### 1 福祉のまちづくりを進めていくためには、誰もがユニバーサルデザインについて継続して学べる場をつくる等、ユニバーサルデザインに関する教育の充実が求められている。

⇒ 今後、学校で行っているユニバーサルデザイン体験教室や大人向けユニバーサルデザイン地域講座の充実を図る。

### 2 より分かりやすい情報保障の推進

誰もが必要な情報を「わかりやすく」「身近で手に取りやすく」受け取れるよう、情報のユニバーサルデザインが求める声が多くなっている。

⇒ 多様な人の声を聞き、誰もが平等に情報を入力し、利用できる環境の充実を目指す。